

結論：タクロリムス硝子体内投与は炎症性サイトカイン産生を制御することでEAUを抑制する。

11. ベーチェット病における網膜局在抗原のプロテオミクスによる網羅的解析

(眼科学) 奥貫 陽子、白井 嘉彦、服部 貴明
毛塚 剛司、竹内 大、白井 正彦
(聖マリアンナ医大・難治研センター・臨床プロテオミクス)
西岡久寿樹、加藤 智啓

網膜抗原に対する免疫反応は、ぶどう膜炎を伴うベーチェット病 (BD) の重要な病態の一つと考えられている。今回我々は、プロテオミクス

の手法を用いてBDにおける網膜抗原を網羅的に同定した。マウス網膜蛋白を2次元電気泳動で展開し、二次元ウェスタンブロット (WB) 法にて、眼所見を有するBD患者 (13名)、健常人 (15名) の血清が認識する網膜抗原の比較を行い、BDで陽性率の高い抗原を質量分析装置で同定した。選出した6個の抗原候補蛋白のうち3個が同定された。このうち2つはBDの網膜抗原としての報告があるS抗原と α -enolaseであった。もう一つは、selenium binding protein (SBP) であり、組み換え蛋白を用いたWBで5/25、ELISAで4/25のBD患者で陽性が確認された。今回の結果から、S抗原と α -enolaseがBDの自己抗原として再確認され、SBPがBDの新規自己抗原であることが示唆された。